

## インターバンクの声（2015年4月10日）

ドル/円がニューヨーク市場の終盤に120円70銭を超える水準まで上昇してきたことにも少し驚かされるが、週初には1.10ドル台で取引されていたユーロ/ドルが元気なく1.06ドル台まで下落し続けてきたことも驚きだ。やはり3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨から、数人の委員会メンバーが6月の利上げを支持していたことが分かり、早期の利上げの選択肢が残っているとの見方が再び広がったことや、経済改革をめぐる欧州連合（EU）との合意が遠のきつつあり、じわり資金枯渇によるデフォルトの可能性が高まるギリシャの現状を考えると、止むを得ない反応なのかも知れない。ただ、ドル高の動きがこのまま続くとの見方が極端に強いわけでもなく、米主要企業の先陣を切って発表されたアルミ最大手アルコアの決算が市場予想を下回り、企業決算にも不安が出始めたことや、依然として経済指標に強弱双方の発表が続いていることなどが懸念材料だ。値幅の大きさは魅力だが、なかなか積極的に参加しにくい相場展開がしばらく続きそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。